

# 地域とともに ...



- ①射水市消防団南部方面団長として地域の安全安心を守ります。
- ②射水シンボルツリープロジェクトにて地元の学生の皆さんと連携してクリスマスツリーを設置しました。
- ③新型コロナを乗り越え、地域の伝統や文化を再活性化させていきましょう。
- ④小杉まちづくり協議会会長として小杉駅の再開発について夏野射水市長へ提言しました。

## 永森直人〈ながもりなおと〉プロフィール

〈略歴〉

生年月日／昭和 50 年 1 月 20 日生まれ **48歳**

住所／射水市三ヶ

経歴／小杉小学校、小杉中学校、高岡南高校、東京都立大学経済学部卒業

家族／妻、長男(大学 1 年)、次男(高校 1 年)

平成 9 年 4 月 富山県庁入庁

ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、高齢福祉課では特別養護老人ホームの待機者対策などの施策に取り組む。

平成 22 年 9 月 富山県庁退職

平成 23 年 4 月 富山県議会議員に初当選(現在 3 期目)

主な役職

自民党富山県連組織委員長

自民党射水市連合支部部長、自民党小杉連合支部部長

射水市消防団南部方面団長、保護司(射水市保護司会)

小杉まちづくり協議会会長、NPO 法人日本応急救手当普及員協会顧問(令和 5 年 1 月末現在)

## 私たち は 永森直人さん を 推薦 し ま す !

三ヶ地域振興会 戸破地域振興会 橋下条地域振興会 金山地域振興会  
大江地域振興会 黒河地域振興会 池多地域振興会 太閤山地域振興会  
中太閤山まちづくり地域振興会 南太閤山地域振興会 浅井報徳地域振興会  
櫛田地域振興会理事会 水戸田地域振興会 ふたくち地域振興会 大門地域振興会  
下地区地域振興会

永森直人後援会ご入会の問い合わせはこちらまで

永森直人後援会

住所／〒933-0306 射水市手崎 363-1  
TEL 0766-55-3533 FAX 0766-55-3577  
E-mail nagamorinaoto.office@gmail.com

公式ブログ情報発信中!

ナガモリナオト で検索



“幸せな未来のために  
”真っ直ぐに



ながもり なあと

永森直人

自由民主党・富山県議会議員



未来への責任  
覚悟を持って!



県議会本会議で一般質問

## 射水の未来を切り拓くための施策を県政へ提言

(県議会での論戦)

- (永森)太閤山ランドのリニューアルに取り組むべき  
⇒(知事)官民連携して、魅力向上策の実現に向け努力する。
- (永森)射水ベイエリアに民間活力を導入し魅力向上に取り組むべき。  
⇒(部長)民間活力導入は有効であり、魅力向上や賑わい創出に努力する。
- (永森)県立大学におけるデータサイエンス教育を促進せよ  
⇒(部長)データサイエンスを学ぶ新学部の整備に取り組む。
- (永森)園芸振興など農業の成長産業化に取り組め  
⇒(知事)園芸など高収益農業にチャレンジする生産者を積極的に応援する。



議会予算特別委員会で質問

切り拓く。

## 未来を支える人材育成に向けて教育環境整備を要望し実現

H31 R4

県立高校普通教室の空調整備率

65 % → 100 %

県立高校のトイレ洋式化

36 % → 100 %

太閤山ランドの  
魅力向上に  
取り組んでいます

バーベキュー場のリニューアル  
や駐車場の無料化、夜間開放  
などを提言しています。



新遊具が設置された太閤山ランド



野田聖子内閣府特命  
担当大臣に子ども食堂  
の規制緩和を要望  
(R4.1)県が規制を緩和。子ども  
食堂開設にあたり、営業許可不  
要・手数料廃止を実現。その結  
果、子ども食堂は、26ヶ所→37ヶ  
所へ増加。

池多地区、金山地区、櫛田地区が  
中山間地域指定を受ける

里山など条件不利  
地域で農業に取り  
組む場合に、交付金  
や農業基盤整備事  
業の補助率のかさ  
上げ措置が適用される中山間地域の指定を橋代  
議士の協力を得ながら、実現することができま  
した。

寄り添う。

新型コロナによる様々な影響について  
地域の声をしっかり届けました

休業要請などに  
伴う飲食店など  
の収入補償、学  
校での学びや部  
活動への影響の  
最小化、コロナの  
影響に伴う貧困などの諸課題について、議会として声  
を届け、支援策を実現してきました。

車椅子バスケットボールチームの  
練習場所確保問題に取り組む

富山市勤労身体障害者体育センターが廃止さ  
れることに伴い、練習場所の確保が課題となり  
ました。障害の有無に関わらず、スポーツが樂  
しめる環境整備に精一杯取り組みます。



ながもりなあと

# 永森直人の 3期目の活動の軌跡



## 県道小杉大門線 堀内地内道路拡幅

通学路の安全対策として強く要望した結果、  
令和4年度新規で事業実施が決定。



## 越中大門駅のバリアフリー化

令和4年度新規で基本設計費用が計上。  
事業推進に向け、引き続き努力します。



## 下条川の堆積土砂や樹木の撤去

年々、激甚化する豪雨に対処するため河  
川の流下能力を上げる事業を実施。



## 小島踏切の拡幅事業

初当選を果たした12年前から要望をいた  
だいてきましたが、ついに事業化に目処。R6  
の事業実施に向け努力します。



## 倉垣小杉～加茂中部の 消雪延長を現地視察

自民党政調会と高岡土木センターで合同現  
地視察。事業化に向けて取り組みます。



地域の要望を形に。

# ご挨拶 原点回帰。幸せな未来に向け、直球勝負！

## 政治を目指した思い

大学を卒業後、富山県庁の職員となりました。4年間の東京での大学生活を通じて、富山県の魅力を改めて実感し、その発展に力を発揮したいと考えたからです。

一方、当時は、日本経済が現在まで続く長く暗いトンネルに入り始めた頃であり、社会は閉塞感に包まれていました。

人口増加や高度経済成長を前提につくられた社会システムが崩壊しつつあることが明らかになりましたが、前例や慣習は、その変革の障害となっていました。県議会は、新しい時代に対応して自由な議論を展開し、行政を突き動かすエネルギーとしての役割を果たすべきであると強く感じ、自分がその一翼を担いたいと考えるに至りました。

## 初当選 からおよそ12年、議員活動を通じて得たもの

初当選当時は、県職員としての経験を通じ、県政の課題を捉え、解決に結びつけるということについてはある程度できる自信を持っていました。しかし、振り返ると、射水地域の風土や文化、住民の皆様の暮らしの実態や願いなどについて非常に無知であり、課題の本質を捉えることができていなかったと感じています。

射水地域を隅々まで何度も歩き、多くの人々と出会い、各地の課題解決に取り組む中で、微力ではありますが、物事をより広い視点でみる力、そして、一つの政策の実行が、良い面や悪い面を含め、地域の暮らしにどう影響を及ぼすのかを考える想像力を高めることができたと思っています。

この経験を生かし、そして初心を忘れず、"幸せな未来" のため走り続ける覚悟です。

## 私の目指す社会像

例えば、子どもの数が減っているにも関わらず、不登校や子どもの自殺者数が増加するという悲しい現実があります。なぜ、このようなことが起きるのでしょうか？

教育や子育て家庭支援には抜本的な転換が求められており、子どもや家庭が抱える多様な困難や願いを捉え、個別に寄り添う対応が求められています。

誰もが安心して暮らせる社会をつくる。誰もが持てる力や可能性を発揮できる社会をつくる。そして、誰もが、勇気と自信をもって一歩前に踏み出せる社会をつくる。

このことが、これから的人口減少時代における地域発展の基盤であり、射水市・富山県の無限の可能性を解き放つ原動力になると思っています。

そんな社会の実現に向けて、今後とも努力を積み重ねていきます。

## 私が目指す3つの未来

### 1 みんなにチャンスがある未来を

一人ひとりが自分なりの幸せを見つけ、たくましく生き抜く力を身につけられる教育の実現を目指します。

教育のデジタル化を推進し、個別最適な教育の実現に取り組みます。

部活動の地域移行の円滑化に取り組み、少子化の中にも、子どもたちに多くの選択肢が与えられる環境整備に取り組みます。

人生のどこかで目的意識を持つて懸命に学ぶ期間が必要です。でも、それは学校だけではありません。学び直しの機会の確保に取り組みます。

### 2 誰一人取り残さない安心な未来を

持続可能な公共交通を構築し、誰もが自由に移動ができ、質の高い生活を実現できるように取り組みます。

不登校、いじめ、貧困、虐待などの生きづらさを感じる子ども達が増えています。児童相談所の機能強化など相談体制の充実に取り組みます。

誰もが安心して暮らせるように、通学路の安全対策、集中豪雨・豪雪対策など社会インフラの整備に取り組みます。

コロナの影響により、経済は厳しい状況が続いています。傷んだ経済を立て直す施策の充実に取り組みます。

### 3 美しく豊かな未来を

里山、野、海。射水市の可能性は無限大。富山県と射水市をつなぎ、そのポテンシャルを開花させるために全力で取り組みます。

美しく豊かな農地や里山を後世につなげるために、農業の基盤整備や農家所得向上に取り組みます。

今、地域に空き家が増えています。空き家の利活用や循環を進めるとともに、古き良き景観を守っていきます。

デジタルなど新しい技術を活用し、また、学生など、まちづくりの新たなプレイヤーが育つ環境をつくり、街の賑わいを取り戻します。